

六 盡十方の無身光は

無明のやみきりごとく

一念歡喜するひびき

かからず滅度にいたるむ

无 無身光の利益より

威徳廣大の信を以て

かからず煩惱のこぼれおひ

すまはち菩提のみつとまき

平罪障功德の體とある

しほりぞみづのいひんぞ

しほりたほきにみづたほ

ちほりたほきに徳たほ

己上曇鸞菩薩

道綽禪師

付釋文

七首

一本師道緯禪師は

聖道萬行さうたぎて

唯有淨土一門の

通入すべきみちをいふ

二本師道緯大師は

涅槃の廣業さうたぎて

本願他力をたのみつ

五濁の群生すめむ

三 末法まっぽう五濁ごじやくの衆生しゆじやうは

聖道しやうだうの修行しゆぎやうせむむも

ひとりも證あきまをいづむん

教主けしゆ世尊しそんはむきたる

四 鸞鳥らん師しのたむをうひつた

綽和しやくわ尚しやうはもろもに

在此こゝ起おこ心しん立た行ぎやうは

此こゝ是こゝ自みづか力りきとさためなり

五濁世ぢうごせの起おこ惡あく造罪ぞうざいは

暴風ほふう駛い雨うにいとあらず

諸佛しよぶつこれらをあはれみて

すめてぢうど淨土じやうどに歸かへせり

六む一いつ形かたち惡あくをつくれ也なり

專精せんじやうにいろをかけて

つねにねん念佛ねんぶつせむれば

諸障しよしやう自然じぜんにのぞいりぬ

七 縱トヨリ今イマ一イチ生シヨウ造ゾウ惡アクの

衆シヨウ生シヨウ引イン攝セツのノたタめメにニとトて

稱テイ我ガ名ナ字ジとト願ガンじツ

若ニホク不フ生シヨウ者ジャとトちチかカひヒけケり

已イ上ジョウ道ドウ綽クワ和ワ尚ジョウ

善ゼン導ダウ禪ゼン師シ 付ツケ釋シヤク文ブン 十五ジュウゴ首シュ

一 だいあんかい 大心海より け 化して くえ いた

ぜん 善導 だう 和尚 くま と た は け けれ

まう 末代 たい 濁世 の た め に あ いて

あう 十方 ぜん 諸佛 に あ いて あ いて

二 ぜん よよに だう 善導 す べて あ いて

ほふ 法照 せう 少康 と め いて

く 功德 ぞく 藏 を ひ ら ま いて を

あま 諸佛 の ほん 本意 を あ いて あ いて

三 彌陀みだの名願なまのねがひにまらざれば

百千萬劫ひやくせんまんにじゆすくればも

らいつのちあつはあれぬは

女身によみんをいかてか轉てんずくま

四 釋迦あやは要門きやうもんひらきつ

定散ぢやうさん諸機しよきをあわれみて

正雜ぢやうざつ一行いっぎやう方便べんぽう

ひとゑに專修せんじゆすめむ



五 助正あまのりあまのりて修しゆするきは

すあわちざう雑修しゆとあつひた

一心いっしんをいざるひとあれば

佛恩ぶつおん報ほうするこころあ

六 佛ぶつ號がうむねと修しゆすれども

現世げんぜをいのる行者ぎやうじやをば

これもざう雑修しゆとあつひたを

千中せんちゆう無むしとあつひたを

七 いろいろはひまじい。あんなあんな。

雑行雑行雑修雑修これにたう

浄土浄土の行行にあんなぬまは

ひまじいひまじいに雑行雑行あんなあんな

八 善導善導大師大師證證をいひ

定散定散二心二心をひらかへ

貪瞋貪瞋二河二河の譬喻譬喻をいひ

弘願弘願の信信守護守護せむ

九 經道滅盡きやうだうめつじんといきたり

如來出世の本意にょらいしゅつせほんいある

本願真宗ほんぐんしんしゆにあひぬれば

凡夫念ほんぶねんしてちるまの

十 佛法力ぶつぽうりきの不思議ふしぎには

諸邪業しよじゃごう繫けらわらねば

彌陀の本みだほん弘誓願くせいぐんを

増上縁ぞうじゆ縁とあつきたり

土願力成就の報土には

自力の心行いたらねば

大小聖人みあみあから

如來の弘誓に乗ず

土煩惱具足と信知して

本願力に乗ずれば

すあわち穢身すてはて

法性常樂證せしむ

三 釋迦彌陀は慈悲の父母

種種に善巧方便して

われらが無上の信心を

發起せしめたまひけり

由真心徹到するひとは

金剛の心ありければ

三品の懺悔するもの

ひびく宗師はのたまひ

五濁惡世ごぢよくあくせのわれらこそ

金剛こんがうの信心しんじんばかりにて

あかく生死まかりをすてはて

自然ねんの浄土じやうどにいたるあれ

正像末法和讚

まほうのまほうのまほうのまほう

一釋尊かくれましまして

しやくそん

二千餘年にありたまふ

にせんよねん

正像の一時はわはつに

まほうのまほうのまほう

如來の遺弟悲泣せよ

にようらいのいであい

ニ 末法五濁の有情の

行證ぎょうじょうかゝはぬなれば

釋迦しやくかの遺法いふほこゝづく

龍宮りゆうぐにいらりたまひにせり

三 正像末の三時には

彌陀みだの本願ほんがんひろまれり

像季ざうき末法まふのこのよには

諸善龍宮しよぜんりゆうぐにいらりたまふ



四 だい 大集經だいしゅうきやうににきたたまふ

この世よは第五五百年だいごごひゃくねん

闘諍堅固とうしやうけんこあるに

白法びやくふ隱滞いんたいしたまひ

五 ご 數萬歲あひまんざいの有情うじやうも

果報くわほうやうやくたむりて

二万歳にまんざいにいたるは

五濁ごぢやく惡世あくせのあきなり

六 劫濁こふ ぢやくのたまたまいつるには

有情う じやうやうやく身みん せう小き

五濁ご ぢやく惡邪あく じやままたる人

毒蛇どく ぢやく惡龍あく りゆうのこころま

七 無明む びやう煩惱ぼん ぼうげくして

塵數ちん ずのごとく徧滿へん まんす

愛憎あい ぞう違順ち じゆんするがいは

高峯かう ぶ岳山がく さんのこころま

八 う有情じゆうじやうの邪見あやけん熾盛あやうにて

そうりん叢林そうりん棘刺こくしのごいんあり

ねんぶつ念佛ねんぶつの信者あんにんをご疑ぎ謗ぼうて

た破壊た瞋毒あんなどくさごかりごあり

九 まうぢやくちう命濁まうぢやくちう中ちゆう夫刹ぶせつ那なにて

に依まう正に二報に滅めつ亡まうす

まへ背正まへ歸き邪あやをごのむと

まう横まうにごあたごをごたごひる

十末法第五の五百年 まろ ぼふだいごご ひやくねん

この世の一切有情の よ さいしやう じゆう

如來の悲願を信せぬは にやらい ひ ぐまん さん

出離その期もあがるべし あつり ごと

士九十五種世をけがす く 考ゆご 考ゆよ

唯佛一道まよひます ゆい ぶつ いちだう

菩提に出到してのみぞ ぼだい 考ゆつたう

火宅の利益は自然なる くわたくし かりやく ねん

三 五濁の時機ごちやくいたりては

道俗だうたくともにならざるひて

念佛ねんぶつ信あんする人ひとをみま

疑ぎ謗ぼう破を滅めつさかのり

三 菩提ぼだいをうまうま人ひとはみま

専せん修しゆ念佛ねんぶつにあだあだをま

頓とん教けう毀くわい滅めつのあるには

生死しやうじの大海たいかいきはあ

古ふる正法しやうぽうの時機ときこれものじも

底てい下げの凡ほん愚ぐとあれるは

清淨しやうじやう眞實しんじつのころき

發ほつ菩ぼ提だい心しんいかせん

五ご自力じりき聖道しやうだうの菩提ぼだい心しん

ころもいじはもたよはれず

常じやう没もつ流轉りうてんの凡ほん愚ぐは

いかてか發ほつ起きせむべき

其 さん 二恒河沙の諸佛の さむ

出世のみも あつせ ありあけ

大菩提心 だいぼ だいしん いたしせども

自力 じりき かまはて流轉 る せん せり

モ 像末五濁の世 しやうまつごじゆく ありて

釋迦の遺教 しやか しゆいけう かくれむ

彌陀の悲願 みだ ひぐせん はひろまると

念佛往生 ねんぶつ わうじゆう さかりあり

六 超こゝろ世せ無む上じやうに攝せり取と

選擇せん五劫ごこふ思惟しゆいして

光明くわうめい壽命じゆゑんの誓願せいがんを

大悲だいひの本ほんと一いつたまり

充ちゆう淨土じやうどの大だい菩提ぼだい心しんは

願がん作さく佛心ぶつしんをすめむ

すまはち願がん作さく佛心ぶつしんを

度ど衆生しゆじやう心しんとあづけたり



平ご度衆生あつち心こころといふいふは

彌陀みだ智願ちげんの廻向えんかうあり

廻向えんかうの信樂あんなげんうるといは

大般涅槃だいぼんねはんをおんたのむたのむは

四十五 聖道門まうだうもんの人ひとはみま

自力じりきの心こころをおんたのむたのむは

他力たうりき不思議ふしぎいふいふは

義ぎをおんたのむたのむは信あんな智ちの

五十五

釋迦の遺法しやか ゆいほふまじりませぬ

修あめすべき有情うきのまじりた

さびつらもの未法まひに

一人いちにんもあつたつたつたつた

六十五

三朝さん淨土じやうとの大師だいし等

哀愍あいみん攝受せつあめしたまひて

眞實まんとく信心しんじんすめしむ

定聚ぢやうぢゆのくまひにたれぬ

七十五

他た力りきの信あん心しんうる人ひとを

うやまひたほせむらひば

すまはちわが親あ友んぞと

教け主う世せ尊そんはほめたまふ

八十五

如に來よ大だい悲いの恩おん德とくは

身みを粉こなにこしても報あずらへ

師し主あ知ち識しの恩おん德とくも

骨ほねを碎くだても謝あすべへ

一 不了ふれう佛智ぶつちの。一ちる。一ちには

如來にょらいの諸智あまのちを疑惑ぎあくして

罪福ざいふく信あんト 善本ぜんほんを

たのめば邊地へんちにやまらざる

二 罪福ざいふく信あんずる行者まやうおやは

佛智ぶつちの不思議ふしぎをうたがひて

疑城胎宮ぎぢやうたいぐうにとぐまれば

三寶さんぼうにはおれたたきある

三 佛ぶつ智ち疑ぎ惑わくの罪つとにまり

懈け慢まん邊へん地ちにまるまり

疑ぎ惑わくの罪つとのふかまいゆ

年ねん歳さい劫こう數ちゆうをふるやむん

四 轉てん輪りん皇わうの王わう子しの

皇わうにつみきらうるゆに

金こん鎖さをもちてしまるまり

牢ろう獄ごくにいるがいふんび

五 自力稱名の人はみま

如來の本願信せねば

うたがひのつみのふかきゆ

七寶の獄にそいまゝむ

六 佛智の不思議をうたがひて

善本徳本たのむ人

邊地懈慢にむまれば

大慈大悲はうたがひ

七 本願ほんぐん疑惑ぎぎの行者ぎやうには

含華かんけ未出みしゅつの人ひともあり

或生邊地わくちうへんぢとまじひつ

或墮宮胎わくだくうたいとすてらる

八 如來にょらいの諸智しよちを疑惑ぎぎして

信まんせずまがらまほもまた

罪福ざいふくふかく信まんせしめ

善本ぜんほん修習しゆじゆ自まづくれたり

九 ブチ佛ゴウ智チ目メを疑ギ惑クするゆゑに

たい胎生チのものは智チ慧ヒも

たい胎宮グウにかかはずむしまるむ

らう牢獄ゴクにいるとたゞとなら

十 あつ七寶セツの宮殿クウテンにむまれば

ご五百歳ヒヤクサイのごとく

ま三寶サンを見聞ケンせざるゆゑ

う有情利益リヤクはさるゝ



一 淨土眞宗じゆんとうしんしゆに歸かへりすれども

眞實まことの心こころはありがた

虚假うそ不實ふまことのこのみにて

清淨じやうじやうの心こころもどらうにあり

二 外儀げぎのすがたはひびきぬと

賢善けんぜん精進じやうじん現げんぜしむ

貪瞋どんしん邪偽じゃぎたほましく

奸詐かんさもはし身みにみぞ

三 悪性あくせうさうにやめがた

まゝろは蛇蝎ぢやかりのじやんま

修善しゆぜんも雑毒ざつどくあるとくに

虚假こけの行ぎやうとぞあつけたる

四 无慚むざん无愧むきのこのみにて

まじとのいろはあはれたる

彌陀みだの廻向まわりの御名みああれば

功德くどくは十方じふぱうにみちたまふ

五 せうとせうひ 小慈小悲もあまきみにて

うき 有情利益はたもふべき

にょらい ぐんせん 如來の願船いままさずば

くかい 苦海をいかでかわたるべき

明治三十九年一月五日 印刷

同 同 同 十一日 發行

三重縣平民

實價三十八錢

正礼附

編輯兼 發行 者 溝口 嘉助

三重縣伊勢國河藝郡 一身田西之町五十五番地

